

春告草

第46号 平成28年12月20日 進路指導部発行

サクラサク その日のために 今があり

6年生は最後の冬休みを迎えます。年が明ければすぐにセンター試験。国公立大志望の人にとっては失敗の許されない大切な試験です。私大志望の人にとっても、模擬ではない「本番の試験」は2月から始まる私大入試の前哨戦であり、実力を試す絶好のチャンスです。もちろんセンター利用試験に出願する人にとっては少しでも点を稼いで合格を目指したいところですね。

センター試験まで25日
飛躍する予感。
夢は大きく 希望は高く 試験に向かうハートは強く
頑張れ二期生!

5年生は進路目標が決定し、選択科目の本調査も終わったところ。明日からの勉強合宿で、受験勉強のスイッチを入れてください。

4年生にとって大学受験はまだ先のことに思えるでしょうが、本校6年間の学校生活の4年が終わろうとしています。フルマラソン 42.195 キロで例えれば 30 キロ地点にさしかかる頃です。そろそろエネルギーも切れ、レース後半に向けてのプランニングも必要となる地点。自分の現在の学力的立ち位置を確認し、目標到達までのシナリオを描いてみましょう。

さて、「サクラサク」は昔から大学合格を伝える電報に使われていたフレーズ。

他にも、

アオバモユル オメデトウ (青葉燃ゆる おめでとう 東北大学)

オチャカオル (お茶薫る お茶の水女子大)

フジサンチョウ セイフクス (富士山頂征服す 静岡大学)

イセエビ タイリョウ (伊勢海老大漁 三重大学)

ダイブツヨロコブ (大仏喜ぶ 奈良大学)

など、地方色が出ていて面白いですね。

合格発表がインターネット主流になり、合格電報も廃止されていく状況の中、Web出願を利用する大学はますます増加する傾向です。味のある電文は残してもらいたいものです。

さて、桜は日本の4月、新生活のスタートを象徴する花だと思いますが、開花の為には1月、2月の冷え込みが必要なのだそうです。厳しい冷え込みの後に開花の時期がくるということ、今の皆さんの状況に重ねてみると力が湧いてきませんか。辛い時、苦しい時、ピンチの時には心の中で

「サクラサク その日のために 今があり」とつぶやいてみてください。寒い時期をじっと耐えて初めて開花を迎える桜を思い出して元気が出れば、うれしい限りです。

受験勉強のスタート時期

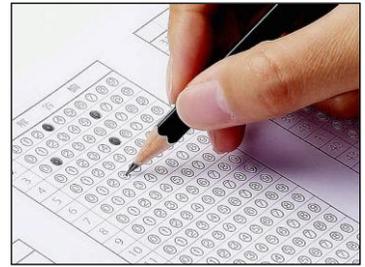
回 答	全国 (%)
1年生の3学期以前 (春休みより前)	1.4
1年生の春休み	0.9
2年生の1学期 (4月以降)	2.0
2年生の夏休み	7.0
2年生の2学期 (9月以降)	31.5
2年生の冬休み	24.7
2年生の3学期 (1月以降)	13.3
3年生になってから	15.8
受験勉強をするつもりはない	3.1

受験勉強のスタート時期については、高2の冬休みまでにはスタートしている人が多い。一方、「3年生になってから」と回答している人は1割以上。まだ受験勉強を始めている人は、今からできることを考えて取り組んでみよう。

(2016年度スタディーサポート2年生第2回全国集計結果より)

マーク試験にご用心！

大学3年の時にプログラミングの授業があった。今や、本校でも前期課程の生徒にタブレットパソコンが一人一台ずつ貸与される時代であるが、何しろ40年以上も前の話。IBM370というマシンだったが、我々数学科の学生が端末を自由に使える資格はなく、生協の売店で売っていたマークカードにプログラムの1行1行をマークしてコーディングしていた。プログラムにミスがあれば、そのマークを消して塗り直すという、IBMの最新マシンの処理速度からすれば、気の遠くなるような超アナログ作業を強いられた。その時に、プログラムエラーではね返されたカードのマークをチェックしても、プリンターで打ち出されたミスが発見できない時があった。しかし、よくよく調べてみると、消し方が不十分だったことや、カードに残った消しゴムのカスが原因だった。今は機械の読み取り精度も上がり、以前に比べれば読み取りエラーは少ないはずであるが、精度が上がったが故のエラーも起こるだろう。つまらないミスで自分の解答が「誤答」と判定されないためにも、マーク試験こそ細心の注意を払って受験したいものだ。



■消しミスや思い込みでのマークミスを無くす

6年生は期末試験後、センター試験演習を行っているが、みなさんが提出したシートをマークシートリーダーにかけてチェックすると、消しミスによる誤答、マーク漏れが目立つ。提出された全シートの数%にマークミスが見られたので、十分に注意しよう。受験番号欄に番号は記入したがマークをし忘れたというケースや空欄にすべきところを思い込みで「0」で埋めてしまったという事例もあった。

これまでにも「マーク模試」は行ってきて、そういったミスを自分にはしていないと思いがちだが、インターネットで次のような証言を発見した。



自己採点では高得点。しかし、解答科目のマークもれで0点に。本人は気付いていないが…

「模試屋をしています。

模試では、受験直前期でも5%程度の読めないマークシートが発生します。よほど先生の指導の良い高校実施の模試でも1%程度は読めません。マークミスや消しゴムのカスの場合も多いのですが、マークシートの塗り方そのものが原因の場合も結構あります。

でも、きちんと採点されて返ってきますよね。なぜだか分かります？ 模試は採点して成績を返すところまでが商売なので、気づいたら必ず修正をするからです。マークシートの塗り直しは日常茶飯事です。

『模試で大丈夫だったから、入試でも大丈夫』という勘違いはしないでください。」

マークミスで誤答と判定された場合、さらに厄介なのは本人が誤答と認識していないこと。自己採点が正確にできないので、国公立大学出願で判断を誤ることに繋がりがかねません。くれぐれも慎重に…！

■マークは鉛筆に限る！

模試屋さんにはマーク試験でのシャープペン使用についても次のような警鐘を鳴らしています。

「シャープペンシルと鉛筆の芯の成分が全く同じだと勘違いをしている人は多いです。シャープペンシルの芯も本来は鉛筆の芯と同じ黒鉛ですが、シャープペンの芯の商品パッケージに表示されているように、折れにくく、そして濃く書くために、黒鉛以外の成分も多く入っています。この為、同じ濃さに塗ったつもりでも、黒鉛自身の濃さはものすごく薄い、という商品があります。HBのつもりが、黒鉛の濃さでは4Hくらいしかないということもあります。芯を折れにくくするための成分も入っています。

そして、読取機の多くは、この黒鉛の反射する光を読み取っています。けっして『黒い色』を読んでいるのではないのです。」

どうですか？もう、シャープペンシルでも大丈夫という気にはなりませんよね。

また、細い芯を折れにくくする為の硬化剤は紙面に傷をつけていることになります。反射する光を読み取るという原理からいえば、表面はフラットな方が良いでしょう。使用はご法度です。

私たちが センター試験で 失敗した理由。

これまでの成果を存分に発揮したいセンター試験。だが、入試本番の皮切りとなるだけに、思わぬ落とし穴も潜んでいる。

センター試験で失敗した体験談から、年明けの本試験受験に向けての対策を見出そう。

(堂雪時代12月号の記事を元に、本校での事例も付加して編集しました)

■地歴の解答科目を間違えたショックが以降の科目にも影響

私はあまり緊張しないタイプで、センター対策もしっかりやったという自信もあったので、プレッシャーを半ば楽しむような気持ちで本試験を迎えました。最初の科目・地歴では、まず苦手の日本史を解答。「できた」という手応えを感じて、2科目目の地理に臨みました。しかし全問解き終えて、問題冊子のページをめくると、次のページからが本来解くべきだった地理Bの問題が載っていたのです。そこではじめて、科目を間違えて地理Aを解いてしまったことに気付きました。冬休みには、本試験と同じ地歴で1冊になった問題冊子を使った練習もやりましたが、そんなミスをするなど思い至りませんでした。解答時間は残り30分。慌てて地理Bに取り組みましたが、正確な判断ができるわけもなく、覚えた内容も思い出せず、焦っている間に終わってしまいました。地理は得意科目だっただけに、残りの科目でもショックを引きずってしまいました。(明治大学・農学部在学)

■休憩時間の周囲の会話が緊張を増長!

センター1日目はあまり緊張も感じず、普段通りに解き終えました。しかし、2日目の最初の数学IAで、過去問演習では50分で解けていたところ、全問解くのに解答時間ギリギリまでかかってしまったのです。「思ったより得点できていないかも」と感じたものの、解答直後は残りの科目でなんとかなると思っていました。しかし続く休憩時間に、周りの人が「IAは結構、簡単だったね」と言っているのが聞こえてきたのです。

IAで手応えを感じられなかった私は急に不安になってしまいました。間もなく始まった2科目目のIIBでは、問題文が頭に入らず、同じところを何度も読み返すような状態。しっかりと練習してきたにもかかわらず解答時間が足りなくなり、「実は自分は緊張していた」と気付いてしまったのです。3科目目の理科は「数学が取れなかった分を取り返さなくちゃ」という気持ちでいっぱいでした。まず得意科目の物理に取り掛かりましたが、思うように解答できず、手応えも感じられませんでした。それによっていっそう焦り、最後の化学では「挽回しなくては」と思うあまり、半ばパニック状態になっていました。選択問題にもかかわらず全部の問題に手をつけたり、マークを塗り間違えたり…。時間内に全問解き切ることもできませんでした。焦りから、自分の解答を控えておくことも忘れていました。正確な自己採点ができず、実際より低い点数だと思い込んだため、センター後に落ち込む原因となりました。(千葉大学・工学部在学)

失敗談から学ぶトラブルシューティング

直前期は頻出分野を確認し個別試験・私立大も意識
一直前期はどんな勉強をすべき?

A 苦手な数学に時間を割いたので、秋以降に得点が伸びてきました。直前期には全科目満遍なく学習したのが良かったと思います。

C 直前期には頻出の分野や公式を押さえておくことも大切です。

B センター直前期でも、理系の人は数学Ⅲや物理、化学の個別試験、私立レベルの問題に触れておくべきです。センター形式の問題ばかり演習していると、定理や公式の使い方を忘れてしまいかねません。

A 文系の人は地歴などの暗記項目を忘れないよう全体を見返すことが、センター試験、個別試験両方の対策になると思います。

雑音に左右されず試験に集中できる準備を
一緊張対策はどうする?

A 私が地歴の問題を取り違えたのは、緊張からだと思います。

B 今思えば、試験会場で他の人の言葉に耳を貸すべきではありませんでした。どの程度の実力の人が言っているのかも分からないのに、なんで真に受けてしまったんだろうって…。

C 周りに振り回されず、自分の力を発揮できるようメンタルトレーニングを意識しておく和良好的ではないでしょうか。

B そういう意味では、私は緊張するタイプだと分かっていたので、自分がリラックスできる方法を見つけておけばよかったです。時間を計って過去問を解くばかりでなく、実際のセンター試験と同じ時間で丸2日間のシミュレーションをするとよいと思います。

A 慣れない乗り換えで戸惑わないよう、会場の下見も大切です。

C どんな結果になっても自分がやってきたことに責任が持てるよう、直前期はとことん自分を追い込むべきだと思います。そうすれば、ある教科の出来が悪くても、素早く切り替えられるのではないのでしょうか。

センター時間で生活してみることの勧め

3学期が明けると、週末はセンター試験です。朝5時半に起床して食事。その後、家を7時には出て中央線「国分寺」駅下車が8時前。徒歩25分で東京学芸大学到着。1時間前に試験会場に入る・・・。

試験会場は東京学芸大学、一橋大学、津田塾大学、東京経済大学、明治薬科大学の5会場に分かれたが、それぞれのケースでシミュレーションしてみよう。

冬休みはセンター当日のタイムテーブルで2日間を過ごしてみることを勧める。センタープレテストの解き直し、青パックや市販の予想問題に取り組んでも良い。また、試験と試験の間の空き時間の使い方にも注意しよう。次の試験に備えて問題集などで「最終チェック」をする、適度に糖分を補給するなど、本試験を想定し、シミュレーションしてみると良いだろう。



1日目・実施日 ()			2日目・実施日 ()		
時刻	センター試験	計 画	時刻	センター試験	計 画
6			6		
7			7		
8			8		
9			9		
10	地歴公民 (60+60 or 60) 9:30~11:40 (2科目受験) 10:40~11:40 (1科目受験) 入室は 9:05 or 10:15 まで		10	理科① (60) 9:30~10:30 入室は 9:15 まで	
11			11	数学① (60) 11:20~12:20 入室は 11:05 まで	
12			12		
13	国語 (80) 13:00~14:20 入室は 12:45 まで		13	数学② (60) 13:40~14:40 入室は 13:25 まで	
14			14		
15	外国語・筆記 (80) 15:10~16:30 入室は 14:55 まで		15		
16			16	理科② (60+60 or 60) 15:30~17:40 (2科目受験) 16:40~17:40 (1科目受験) 入室は 15:15 or 16:25	
17	英語・リスニング (30) 17:10~18:10 入室は 17:05 まで		17		
18			18		
19			19		
20			20		